



肺年齢を測ってみませんか？



スパイロメーターを使っの検査風景

岩美病院検査室では、電子カルテの導入にあわせて肺機能検査機器を更新しました。新しい機器は、肺年齢も知ることができるようになりましたのでご紹介します。

私たちの肺は、片時も休むことなく呼吸運動を行なっており、体のすべての臓器が機能するために、必要な酸素を送りその一方で二酸化炭素を体外に排出しています。この肺の働きを肺機能（呼吸機能）といいます。

肺機能（呼吸機能）検査ってどういうもの？

一般に行われているのは、スパイロメーターという検査機器を用いる（当院も使用）検査です。

息を吸ったり吐いたりして肺を出入する空気の量や速度を測定し、肺の状態や、呼吸の病気がないかなどを調べます。

当院では、人間ドック、健診でも検査されています。

肺機能検査で何がわかるの？

息切れ、呼吸が苦しい、咳や痰が多いなど肺の病気の診断や重症度がわかります。

気管支喘息の診断に重要な検査で、手術時の麻酔の選択にも利用されます。

肺年齢とは？

肺年齢とは、1秒間に吐ける息の量（1秒量）から、自分の呼吸機能（肺の健康状態）がどの程度であるかを知って頂くための目安です。肺年齢が実年齢以上の方は、肺機能の低下が疑われます。

肺の生活習慣病COPDが急増しています。

COPD（慢性閉塞性肺疾患）は喫煙が主な原因とされ、肺への空気の通りが慢性的に悪くなりゆっくりと進行していく疾患で、これまで肺気腫や慢性気管支炎と呼ばれていたもののほとんどが含まれます。わが国の推定患者数は500万人以上、40歳以上の約10人に1人がCOPDと推定されています。初期の段階では、咳、痰、息切れなどの症状を自覚しにくいため、肺年齢を知ることが、肺の健康維持、病気の予防、早期発見に役立ちます。

あなたのこんな症状 COPD（慢性閉塞性肺疾患）かもしれません



- ☒ タバコを吸うまたは吸っていた
- ☒ 40歳以上
- ☒ 咳、痰がでる
- ☒ 息切れがする

COPDは生活習慣病です。肺年齢を知ることで肺の健康状態を把握しましょう。

検査時間は、10分程度で終わります。

気になることがありましたら、内科外来にご相談ください。